



ジョナサン・ベネディクトの5分で学ぶ父親業 ● その3

# 子どもを性犯罪から守る

## 性犯罪とは

子どもへの性犯罪（または性的虐待）は、「見つけるのも治療するのもむずかしい」という特徴があります。一つには、隠れた所で犯され、知っているのは被害者と加害者の二人だけであること。そして、特に加害者が親か親戚である場合は、どちらも事実を認めることはまれです。実は、加害者の半数が被害児の親か親類なのです。

もう一つの問題は、被害者（児）が虐待にとらわれてしまい、虐待に順応してしまうことです。被害者がくり返されるので、子どもは人生はそういうものと受け入れてしまいます。子どもが大きくなって最初の被害で助けを求めれば、止めさせる可能性がありますが、続いてしまうと子どもは出口が見えずに順応し始めます。通報される性的虐待のケースは、実際より少ないと思われれます。実父が加害者で、母親がそれと気づいた場合さえ、母親が助けを求めるのはまれなのです。

もう一つの難しさは、第三者が性的虐待を発見して加害者を問いただしても、加害者である親や親

戚が脅迫して被害児の口を閉ざすことです。本能的に、子どもは家庭の平和を乱したり加害者を困らせないようにと、隠蔽工作に協力します。

子どもと加害者の関係が近ければ近いほど傷は深いと言います。つまり、見知らぬ男（加害者の大半は男性）から受けた虐待は、その時には傷となるものの、長い目で見ると近親者が同じことをしたほどに深刻ではないかもしれないということ。家族の中で近い関係、子どもが信頼すべき人に虐待されたときに、傷は最も深くなります。

ですから、父親や聖職者などからされた性的虐待は、子どもの精神的霊的な成長を阻むことになりまます。虐待を受けた女子は、被害を受けなかった子に比べ、低いセルフイメージ、情緒不安、そして罪意識に悩まされます。夫婦間の性的問題も増えます。近親者に虐待をされた女性の80%以上が、夫との性行為を楽しめないか、中にはまったく拒む人もいます。ですから、間違つて「単なるいたすら」と言われるこの虐待行為、小さな種として蒔かれたものが、長い年月のうちに被害者の人生の隅々に

まで入り込み、ツルのようからみついて窒息させ、心の平安と幸せな結婚生活を奪ってしまうのです。

## どうしたら防げるか

何よりも、私たち親自身が「子どもを性的に虐待しない」と決意しなければなりません。また、子どもにとつては、早いうちから教え始めて、犯罪に巻き込まれないように助けるのがベストです。

最初に、「体のプライベートな部分は大切に扱いなさい、人がエデンの園で罪を犯した時に神がおわれた体の特別な部分だから、好奇心から見たり触ったりしてはいけないよ」と教えましょう。そうすれば、誰かが性犯罪をしようとしたとき、「おかしいことをさせている」と子どもたちの心の中で「危険信号」が鳴ります。例えば、男の子が裸で走り回っ



て、おちんちんを見せびらかす時に、「かわいい」と言つて、一緒に笑うことは避けたほうがいいでしょう。むしろ、ちようどいい機会と考えて、例えば「それは神さまが下さった大切なものだから、大切にしまっておきましょうね」と言います。

子どもが見る本やテレビで「エッチ」なものに出会う時、それを使って心と体のきよさを教えるチャンスにすることもできます。そのようにし続けるなら、「体には人に見せてはいけないところがあり、大切に扱うべきだよ」と教えることができます。そのような訓練がひいては、子どもの無邪気さに乗じて来る大人が近づいてくるときに警告の役目を果たすのです。

文＝ジョナサン・ベネディクト

1956年山口県岩国市生まれ。宣教師2世。  
4男6女がいる。長野県在住。  
清泉女学院大学講師。  
著書「ふたりのために」

